

# チェルノブイリ通信

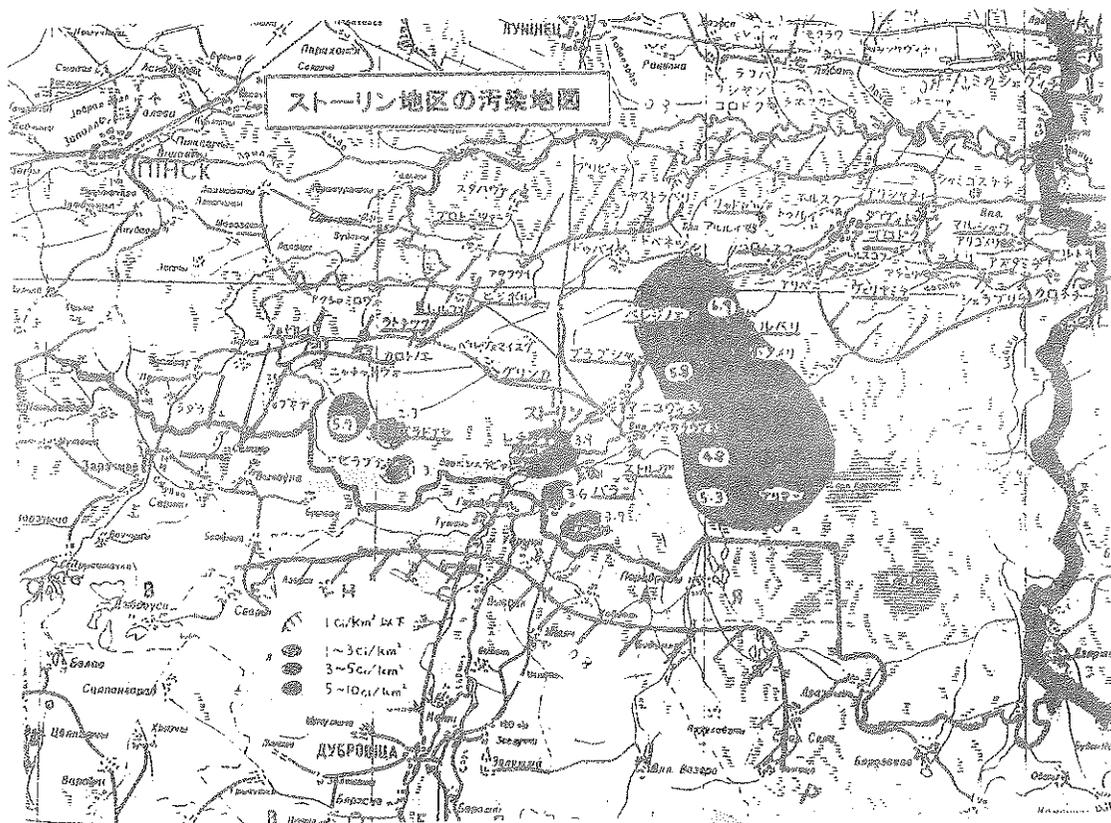
発行 チェルノブイリ支援運動・九州事務局  
連絡先 北九州市八幡東区春の町1-3-7 日開荘2号  
Tel-Fax 093(681)1780

口座番号 01770-1-65328  
加入者名 チェルノブイリ支援運動・九州

1998年1月17日

No.

39



ストーリン地区の汚染地図

# チェルノブイリ通信39号を お届けします

明けましておめでとうございます。チェルノブイリ支援運動・九州を今年もよろしくお祈りします！

さて、「移動検診システム」の第2回派遣団も成果を上げて無事に帰ってきました。皆さんからの支援も目に見える形で生かされてきました。支援運動は、一人ひとりの手で支えられています。今後も現地と一緒に確実な支援体制をつくって行きますので、ご声援・ご協力をよろしくお願いいたします。運営委員一同も、募金と共に皆さんの心を現地に届けることができるようがんばります。

それから、総会があります。支援をしてくださっている皆さんに直にお会いできるのを楽しみにしていますので、ぜひご参加ください。

## 【今回の内容】

- 第2回移動検診システム派遣団報告
- ストーリーン地区病院からの感謝状
- 国際組織チェルノブイリ同盟からの感謝状
- 第8回総会について
  - ・案内(最後のページ)
  - ・総会議案書
- 作文集を読んで ～ブラジルの子どもたちからの手紙
- 事務局より

……となっています。

## 『「移動検診車導入」による 早期診断・治療システム』の 第2回派遣団報告

### 派遣期間

1997年11月20日～30日

### 派遣団構成メンバー

- ・片桐 誠 (東京都・永寿総合病院  
外科部長、専門：甲状腺)
- ・斉藤 紀 (広島・福島生協病院  
病院長、専門：血液)
- ・角 みどり (広島・臨床検査技師)
- ・山田 英雄 (広島・医療通訳)
- ・深江 守 (支援運動・九州代表)
- ・沢村 和世(支援運動・九州運営委員)

### 支援機器・医薬品

顕微鏡	208,845円
検査試薬	1,491,105円
検査器具	329,985円
医薬品(抗生物質他)	826,579円

\* 前回の通信で第1回派遣団の支援機器の中の「移動検診車 29,889,315円となっていたのですが、2,889,315円の誤りでした。訂正をします。とんでもない間違いをしてしまって申し訳ありませんでした。

# ストーリン地区甲状腺癌検診 調査報告(1997年11月)

1998年1月6日  
片桐 誠 (医師)

第2回ストーリン地区検診は日本側より角、斎藤、山田、片桐の4名が参加し、アレクセイ、ナターシャ、ジーマの医師3名と通訳のマリーナ嬢により行われました。今回からは学校検診の一環として、校医より甲状腺に異常を指摘された学童、生徒を中心とした検診が行われました。斎藤医師を総監督として、3日間で甲状腺術後患者10名を含む75名の検診を行いました。既に甲状腺に異常を指摘されている人々を検診したため、甲状腺に何らかの異常があったものは60名に及びましたが、手術が必要と思われた方は2名で、直ちに現地医師によりミンスクの第一病院に紹介されました。その内の一人は、日本から甲状腺診察を行うチームが来ていることを聞き知って受診された青年で、検診の成果が端的に表れた症例でした。今回は血中甲状腺ホルモン濃度はミンスクのアキサコフシナ研究所で行われました。試薬が入手できなかった検査項目は日本で行いましたが、前回の97年7月とは経済・流通機構が随分と改善され、試薬を購入する資金さえあれば全て現地で測定できる、とのことでした。現地で物資が入手出来ると、これからの検診活動も随分と楽になると思われます。

ミンスクの国立甲状腺癌研究所でボランティア活動をしている菅谷昭先生に11月22日にお会いしました。丁度先生

の誕生日で、寒いベラルーシで一人頑張っている先生を囲んで歓談することが出来ました。先生のお話を伺うと、医療に回るお金が少なく、手術を受ける患者さんは絆創膏を持参せねばならないそうで、日本から送られた外科用ガーゼを大切に使用しておられました。

また、今回は半日でしたが、ミンスク市内を見学することも出来ました。商店には思ったより品物は豊富にあり、おしゃれな服装をした女性も多く、経済復興が進んでいることを肌で感じました。

以上

## 第2回ストーリン地区検診に 寄せて

片桐 誠 1997.1.7

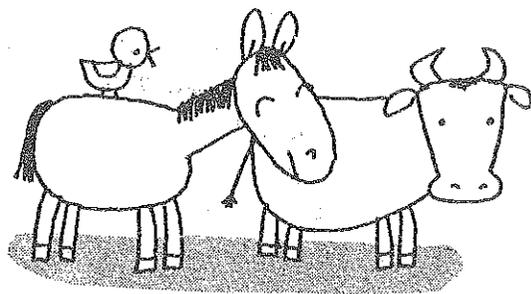
1997年11月に初回に引き続き2度目の検診を行って参りました。検診の結果は別に報告しました。第1回目の私の原稿はどういう訳かボツになってしまいましたので、その分も含め私の感想を述べます。1997年7月ミンスクに到着後アキサコフシナ放射線医学研究所を表敬訪問しました。ラリーサ医師により甲状腺癌術後の療養を行っている患者さん達の入院室を案内されました。24歳位の女性患者は癌の告知を受けていて、将来を悲観してか、不安の表情も露にわれわれ日本人の一行を見つめていました。一日本人医師が触診すると、耐えきれなくなったのか目に大粒の涙がたまり遂には泣き出してしまいました。私にも触診せよと言われましたが、私は深い罪の意識に苛まれました。我々の行為が患者さんの

不安を掻き立ててしまったようです。我々の善意が仇になってしまいました。経済支援も大切です、人的援助も必要とは思いますが、今ベラルーシの悪音さんに必要なものは精神的支えであり、それは言葉、社会制度、宗教あるいは道徳観などが共通している現地の人々でないと出来ないことを実感しました。

11月にミンスクを再度訪問した時には経済の流通機構が随分と改善しているのに気付きました。貧富の差も大きくなっているようですが、それ程貧困に喘ぐ国家とも思えません。今ベラルーシは確実に発展しているように思われます。日本の私の身の回りにも住む場所のないホームレスの方や、身寄りのない高齢の病人、虐げられた人々が沢山おります。カンボジアでは地雷で足を失った子

供達が大勢おります。今何故ベラルーシか？ということも考えさせられました。

2度におたるベラルーシでの検診活動は私に、支援とは何か、私の能力で出来ることは何か、などを熟考する機会を与えてくれました。



## 検診を受ける子どもたちに小さなおみやげを

学校検診も本格的に始まります。検診を受ける子どもたち一人ひとりに日本からの小さなおみやげを渡して、不安な心を少しでもなごませることができたらと思います。今回は授業でチェルノブイリのことを学んだ北九州市立志徳中学校の中学生達が折り鶴などの折り紙を折ってくれ、それを渡しました。また、ボールペン（現地のもは性能が悪いそうです）の寄付もありました。どうもありがとうございました。次回からもこのようなおみやげを持って行けたらと思います。また、検診を手伝ってくださる現地スタッフの方々へのおみやげに日本的なきれいな手芸品などもいいなあと考えています。

しかし、手荷物の制限があるので重いもの、大きなものは持っていくことができません。また、割れ物もだめです。

これらのものを提供していただける方は、あらかじめ事務所までご連絡ください。

\* 折り鶴を送ってくださる場合は、膨らまさないで閉じた状態をお願いします。

チェルノブイリ支援運動・九州の支援に  
対して感謝状をいただきました

## Благодарственное письмо.

Столинское районное территориальное медицинское объединение Брестской области Республики Беларусь выражает большую благодарность и признательность Японской благотворительной ассоциации «Помощь Чернобылю» за огромную работу, которую она проводит по медицинскому обследованию населения района пострадавшего от аварии на ЧАЭС.

Мы выражаем огромную благодарность Японским врачам и их помощникам за их продуктивную работу и надеемся на дальнейшее сотрудничество.

Мы желаем здоровья, счастья и благополучия всем Вам!

Главный врач Столинского территориального  
медицинского объединения

«27» ноября 1997 года

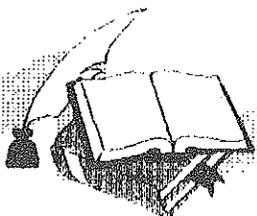


Секретя В.М.

ストーリーン地区病院から  
感謝の手紙

ベラルーシ共和国プレスト州ストーリーン地区地域医療合同（組織一訳者）は、日本の慈善団体「チェルノブイリ支援運動」のチェルノブイリ原発の事故による被災者への医療検診の実施という偉大な事業に対し、深く感謝の意を表します。

私たちは、日本の医者および技師の皆さんの効率的な活動に対し、深い感謝の意を表し、みなさんとの更なる共同事業の発展を期待します。みなさんの健康、幸福、平穩をお祈りします。



1997年11月27日

ストーリーン地域医療合同・主任医師  
V. M. セレクトア（署名）

Международная организация  
"Союз Чернобыль" награждает

господина (-жу) Мамору Фукаэ -  
Мамори Фукаэ - и в его лице  
Движение помощи  
Чернобылю о. Кюсю

за большой вклад в развитие чернобыльского движения, за гуманизм и душевную доброту.



"8" XI - 1997.

Президент  
МО "Союз Чернобыль"

Шовкошительный В.Ф.

国際組織チェルノブイリ同盟から

深江守氏と彼のチェルノブイリ支援運動・九州を、チェルノブイリ運動発展への貢献と、ヒューマニズムおよび精神的やさしさに対して賞せられるものである。

1997年11月8日  
国際組織「チェルノブイリ同盟」  
会長 ジョコシトヌイ

《メダルをいただきました》

国際組織「チェルノブイリ同盟」は、深江守氏（チェルノブイリ支援運動・九州代表）をチェルノブイリ運動への貢献を賞するものである。



№ 442

Памятным знаком  
Международной организации  
"Союз Чернобыль" награждается  
господин (-жа) Мамору Фукаэ  
- MAMORU FUKAE  
президенту Движения  
помощи Чернобылю  
на о. Кюсю

за вклад, внесенный в чернобыльское движение



"8" XI - 1997.

Президент  
МО "Союз Чернобыль"  
  
Шовкошительный В.Ф.

# 第8回 チェルノブイリ支援運動・九州 総会

2月8日(日)午後1時より、総会を行います。(くわしくは最後のページをご覧ください)。この総会議案をよくお読みの上、総会にご出席ください。

総会はどなたでも出席できます。会員数は多いのに、総会出席者が少ないのが毎年の悩みです。今年は第1部には甲状腺医師の武市先生と検査技師の角さんによる講演があります。武市先生には移動検診の結果報告を、また角さんには若い目を通したNGOに参加しての感想を述べていただきます。どうぞふるってご出席ください。第2部の総会では、皆さんの意見、アイデアをお待ちしています。

なお、前年度の総会で会計年度が10月締めから12月締め変更に決定しています。移行期になる97年度は、1996年11月から、1997年12月31日までとなっています。

## 第8回総会議案

### 一、97年度活動報告

#### 【1】主な活動

#### 1、「移動検診車導入」早期診断・治療システム 第一次派遣団、チェルノブイリ支援運動・九州 第8次調査団の派遣

【期 間】 97年7月15日～24日

#### 【メンバー】

中村 隆市 (支援運動・九州運営委員長)、河野 近子 (同 運営委員)、山田 英雄 (ロシア語医療通訳、支援運動・九州 顧問)、武市 宣雄 (甲状腺医師、支援運動九州・顧問)、片桐 誠 (甲状腺医師)、斉藤 紀 (血液専門医師)、角 みどり (検査技師)

#### 【主な訪問先】

ベラルーシ赤十字(ミンスク)、ストーリーン地区病院

#### 【主な活動】

ストーリーン地区病院にて検診

#### 【支援物資】

移動検診車	2,889,315円
超音波診断装置	2,310,000円
血球計算機	1,890,000円
IMXアライフ (中古)	420,000円
顕微鏡	630,000円
検査器具	708,998円
医薬品(抗生物質)	874,553円
検査費用(試薬代等)	979,985円

#### 2、「移動検診車導入」早期診断・治療システム 第二次派遣団、チェルノブイリ支援運動・九州 第9次調査団の派遣

【期 間】 97年11月20日～30日

#### 【メンバー】

深江 守 (支援運動・九州 代表)、沢村 和世 (支援運動・九州 運営委員)、片桐 誠 (甲状腺医師)、斉藤

- ・ 8/6～8 長崎県庁ロビー
- ・ 8/6 中津市立小楠小学校  
中津市立鶴居小学校  
院内北部小学校
- ・ 10/7～11/2  
佐世保東商業高校
- ・ 10/3 北九州市立中央中学校
- ・ 10/5～12 北九州国際交流ウィーク  
(北九州市 国際交流村)
- ・ 10/24 北九州市立志徳中学校
- ・ 11/15 北九州市立中央中学校

## 8. パンプ制作

募金を呼びかけるためにパンフレット  
(カラー A4三つ折り)を制作

## 9. バザー参加

ロシア(ベラルーシ)料理の屋台、民  
芸品・書籍の販売

- ・ 10月12日(日) 北九州市国際  
交流ウィーク エスニックバザー(北  
九州市八幡東区国際通り歩行者天国)
- ・ 10月26日(日) 「九州DEV  
ANDA生命のまつりin北九州」(北  
九州市門司港埋立地)

## 【2】チェルノブイリ支援運動・九州の組織の現状

### 1. 運営委員会体制、活動について

- ① 運営委員会をほぼ月1回のペースで  
開催し、事案の検討を行う。
- ② 運営委員会後、「運営委員会便り」  
を各窓口、顧問の方々約40名に発送  
し、状況報告、意見の収集を行う。

## 2. 組織の現状

① 会員数 2710名(12月末現在  
昨年度1937名))

② 通信発行

通信No.35(96年11月30日発行)

No.36(97年2月3日発行)

No.37(97年4月9日発行)

No.38(97年9月9日発行)

## 【3】会計報告

会計監査後、総会にかけ次回通信に  
掲載

## 【4】ストーリーン地区における移動 検診活動についての総括と今後の 方針の提案

チェルノブイリ原発事故10年を機  
に、今後の10年を見据えた支援のあり  
方を検討してきました。そしてこれまで  
の活動、ベラルーシの状況などを勘案し、  
早期の診断と治療を結びつけるシステム  
をベラルーシに作ることを決定しまし  
た。このシステムは、未だ十分な検診が  
行われていない地域に出かけていき検診  
を行ない、単に検診を行なうだけではな  
く、治療に結びつけるというものです。  
これまでいくつかの国や団体が行なって  
きた検診というものは、単に検診を行な  
うだけで治療に結びつけるというもので  
はありませんでした。また、その検査の  
結果すら教えてもらえないという状況の  
中で、ベラルーシの人々にとっては「検  
診活動」そのものがある意味では大きな  
不信感となっているという現状もありま  
す。従って、私たちがめざす検診、いわ  
ゆる早期診断・治療システムというの

紀 (血液専門医師)、角 みどり (検査技師)、山田 英雄 (ロシア語医療通訳、支援運動・九州顧問)

#### 【主な訪問先】

ベラルーシ赤十字 (ミンスク)、ストーリーリン地区病院、放射線医学センター内分泌研究所

#### 【主な活動】

ストーリーリン地区病院にて検診

#### 【支援物資】

顕微鏡	208,845円
検査試薬	1,491,105円
検査器具	329,985円
医薬品 (抗生物質他)	826,579円

### 3. 「移動検診車導入」による早期診断・治療システム キャンペーン

【期 間】 97年4月19日～5月3日

#### 【来日メンバー】

ラリサ・ダニーロバ (医師)  
ナタリア・クリモビッチ (通訳)

#### 【会 場】

山口県柳井市、大分県中津市、大分市、宮崎県日向市、宮崎市、宮崎県串間市、鹿児島市、熊本県八代市、長崎市、北九州市

#### 【内 容】

ベラルーシの被害状況と現状の厳しさについての報告と交流。

### 4. 事前調査活動と車の購入

【時 期】 6月

ベラルーシ側医師及びベラルーシ赤十字社との「移動検診」のための事前調

査

・移動検診に使用する車の購入

### 5. 臨時總會開催

2月23日(日)八幡東中央公民館(北九州市)にて

#### 【主な内容】

・規約改正  
・今後のサナトリウム(健康回復施設)への取り組み 他

### 6. スタディツアー報告集発行

1996年夏に行われたスタディツアーの報告集「ベラルーシの旅～森と出会いと歌声と～」を4月10日に3000冊発行。一冊500円で販売。

### 7. 報告会、学習会、原画展・写真パネル展の開催

#### 【報告会・学習会講師派遣】

- ・1/22 山口県立大学：環境問題の講義の時間 (沢村和世)
- ・2/1 中津市安全寺：大分県曹洞宗青年会のチェルノブイリ学習会 (山口 英文)
- ・8/6 大分県中津市立小楠小学校：夏の平和教育 (山口 英文)
- ・8/6 大分県中津市立中津中学校：夏の平和教育 (深江 守)
- ・10/3 北九州市立中央中学：家庭教育学級 (河野 近子)

#### 【写真パネル・原画展】

・4/19～5/3  
「移動検診」キャンペーン 各会場

は、まず、①移動検診車を導入し、②それを媒介にミンスクの基幹病院と検診を行なう地域の病院とを結びつけ、③日本の専門家と基幹病院の医師、地区病院の医師の共同の作業として行なうことで、検診と治療がスムーズに行われることになるというものです。当然、検診で得られた情報は全て現地に返すこととなります。また同時に医療技術の交流も行い、いずれはベラルーシ側単独でもしっかりと検診活動が行なえるようにしていくことを目指しています。

こうした確認に基づき、今年度より移動検診活動をスタートさせました。

## 1、対象地域

ブレスト州ストーリン地区。ポーランドと国境を接するブレスト州は比較的汚染の低いところということで、これまで支援の手が届いていませんでしたが、その中であってストーリン地区は甲状腺ガンなどが多発している地域です。

人口9万人。その内14才以下の子どもは2万5千人。基本的には地区病院がストーリン地区全体をカバーするが、中部、南部の6万人が中心で、北部にあるダビドゴロドク病院が3万人ほどを受け持つ体制になっています。エコー技師も地区病院に2人、ダビドゴロドク病院に1人います。

学校検診などは毎年、集団検診方式で行われていますが、触診が中心でエコーを使った検診はカバーできていません。

この地区で事故後、甲状腺ガンと診断され手術を受けた人は72名。19人は14才までの子どもで、10人が15才から18才までの青年。ストーリンの基

準で甲状腺に異常があるとして医療機関に登録されている人の数は3千人。

## 2、移動検診車

名称を一般公募し、「雪だるま」号と命名。7月に11人乗りのワゴン車（ワーゲン）をベラルーシ赤十字に贈呈。医療機器は放射線医学センター内分泌研究所とストーリン地区病院へ。

## 3、検診活動

① 第一回検診（7月20日～22日）  
ストーリン地区病院にて70名の検診を行なう。内、細胞診を施行した人は36名。

② 第二回検診（11月24日～26日）  
ストーリン地区病院にて75名の甲状腺の検診と22名の貧血の子どもの血液検査を行なう。うち、第一回検診受診者11名、甲状腺術後患者10名、本人の希望による乳癌検診1名。学校検診を予定していたが、地区病院に周辺の学校から子どもたちがやってきた。

## 4、経費（支援物資代を含む）

① 事前調査活動（1月）	905,878 円
② 事前調査活動と車の購入（6月）	3,186,640 円
③ 第一回検診（7月）	9,629,989 円
④ 第二回検診（8月）	4,511,489 円
⑤ 計	18,233,996 円

## 5、成果と課題

### ■ 成果

① 様々な困難を乗り越え、計画通りに2回の検診を実施することができたことはその意味で大きな成果である。そして全く初めての事業に取り組んだにもかかわらず、2回の検診活動を通して、ほぼそのノウハウ、検診スタイルは習得できた。ベラルーシ赤十字に入国、滞在の手続きをしてもらい、放射線医学センター内内分泌研究所のラリサ医師、アレクセイ医師等を伴いストーリン地区病院で検診を行なった。また、ストーリンでの検診スタイルも一つの形ができた。

② 私たちがこれから活動を続けていく地域であるストーリン地区、とりわけ地区病院との信頼関係を築くことができた。約束通り2回目の検診にやってきたこと、そして検診結果をその場で返すことができたことなど、私たちに対する評価は大きくなっている。

③ 日本からの検診チームが来ていることを聞いた青年が受診し、甲状腺ガンの疑いがあると診断され、直ちに現地医師（アレクセイ）の手で、ミンスク第一病院へ紹介された。検診活動の大きな成果だった。

④ 試薬があれば、自動血球計測機、IMXの測定は現地でするようになった。

### ■ 課題

① 「移動検診車導入による早期診断・治療システムを支援してください」と呼びかけてカンパを集めているが、実際は、

現地医師の要望により日本からの医師による検診が必要だと診断された患者さんを診ている段階だ。そのため、今のところ地区病院を拠点とした検診という形になり、当初イメージしていたいわゆる「移動検診」に本格的には入っていない。しかし、ストーリン地区の状況、検診スタイルもほぼ理解できたので、次回はワゴン車に機材を積んで、地域検診、もしくは学校検診を行なう。地域もこちらで指定する。

② 2回の検診で文字通り検診は行なったが、「治療システム」ということではまだ煮詰める必要がある。検診を受けた結果がどう生かされているのか、それを確認する作業が必要だ。1回目の検診報告については、ベラルーシ側にうまく伝わってなく、まだ充分生かされているとは言えない。ガンの疑いのある人が4名いたが、手術をした人は1名である。

2回目の検診結果については大まかな説明を現地で行ない、最終的な結果についてはロシア語の直してミンスクとストーリン両方に送っている。次回訪問時に、2回の検診結果がどのように生かされたのかを確認し、次のステップに繋げなければならない。医薬品の支援内容、方法なども検討を行う。

③ ストーリン地区病院との信頼関係はできたが、基幹病院との信頼関係はまだまだと言える。支援運動・九州と放射線医学センター内内分泌研究所との関係を作っていく必要がある。そのためにも内内分泌研究所に定期的に支援することも考えられる。

④ 支援物資のモスクワ通関は毎回のよ

うに頭の痛い問題である。試薬を含めた医薬品がベラルーシで買えることが分かったので、どの程度購入できるか具体的な調査を行なう。また、誰に依頼し、代金の支払いはどうするのか等なども調査する。税金のことなどもあり公的な機関などに間に入ってもらい、公的な形で買えれば事故も少ないのではないかと思われる。

⑤ できれば支援に関わる日本側スタッフ、ベラルーシ側スタッフをある程度確定、固定させたい。

⑥ この移動検診システムに直接着手するのはやはり専門家の仕事である。そこで運動ということを考えれば、これまでのような調査活動をかねた、医療検診とからめた市民レベルの交流を検討してみようか。

## 〔6〕来期の取り組み

### 1. 支援運動・九州第10次調査団第3回医療検診団の派遣

- ・ ラリサさんが6月に現地で医療ゼミナールを計画しており、計画に無理がなければセミナーに合わせる形で第3回の検診団を派遣したい。
- ・ 6月の検診はアルマーニ地区、もしくはアルマーニでの学校検診を計画したい。現地の学校は夏休みに入るが、事前に分かっていたら可能である。
- ・ 地域検診、あるいは学校検診を行なう場合の対象の基準を再考し、こちらからプランを出す。

### 2. 第4回医療検診団の派遣

- ・ 10月、雪が降る前に実施したい。
- ・ 地区病院での検診を基本にする。
- ・ 10月の派遣は外務省への申請事業とするので、申請のためのプランを練る。

### 3. 健康回復センターについて

- ・ サナトリウム・九州の閉鎖にともない、新たな形でのサナトリウム、手術後の子どもたちの健康回復施設への可能性を検討してきた。結論から言えば、現時点で新たな施設を開所することは難しいということになった。

そこで、当面はすでにある既存の施設に対する支援を行ないたいと考える。具体的には放射線医学センター内分秘研究所の回復病棟(サナトリウム)への支援が考えられる。どういう形になるかはベラルーシ側と協議し決定する。

### 4. その他、

# チェルノブイリの子どもたちへ ブラジルの子どもたちからの手紙

「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」を読んだブラジルの子どもたちから、たくさんの手紙が届いています。

チェルノブイリ原発問題に関心を持っているブラジルのコーヒー生産者のカルロスさんと、チェルノブイリ支援コーヒーを販売している(株)ウインドファーム社長の中村さん(チェルノブイリ友の会、チェルノブイリ支援運動・九州 運営委員長)とによって、「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」ポルトガル語版をブラジルで出版することができました。

その本を読んだ子どもたちや先生から中村さんの所に届いた手紙の一部を紹介します。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

ソロカバ、1997年8月22日

こんにちは、マリア

僕は、「チェルノブイリの雪だるま」という本の中のあなたの作文を読みました。

僕はブラジルのソロカバ(サン・パウロ州)に住んでいます。ブラジルのことを少し書きます。まず、マラカナという世界でも最大級の大きさのサッカー場があります。他にも、緑のジャングルと大河があるアマゾンとか、ブラジル最大の都市であるサン・パウロとか、美しい浜

辺などの観光地がたくさんあります。

僕は11才の男子で、名前はファビオです。僕にはアレキサンダー(12才)とブルーノ(14才)という2人の親友がいます。

あなたが、又、元気でしあわせになれることを祈っています。

ファビオ、アレキサンダー、  
ブルーノより心をこめて



<ナターリア・ラスケヴィッチヘ>

親愛なるナターリア。お元気ですか。私たちはあなたの新しい友達です。

私たちの名前はクリスチャン・F・ロレア、モニカ・アントヌス・プエノ、リギア・デ・パウラ・アルバロスです。

私たちは「アルイピオ・デ・アルメイダ」学校の6年生です。

私たちは12歳です。あなたは16歳でしょう？

わたしたちの哲学の先生のマーサが、チェルノブイリ原発事故のことを説明して、私たちに「チェルノブイリの雪だるま」の本をくれました。

そして、マーサはわたしたちに、チェルノブイリの誰かに連帯の手紙を書きましょうと言いました。そこで、私たちはあなたを選びました。だってあなたはとても優しく感じるから。

それでは、わたしたちの国のことを少し説明します。ブラジルは、住むにも、観光で訪れるのにもいいところです。たくさんの川や 6000km にも及ぶ美しい砂浜があります。一年のほとんどが熱帯の気候なのでアマゾンのジャングルやマト・ゴロソンの低地などがあります。

付け加えて、お金持ちはほんの一握りで、貧乏な人がたくさんいます。

私たちブラジル人は、自分たちの国の発展を祈っています。

それでは、あなたの幸せと心の平安をお祈りしています。

私たちに手紙をください。忘れないでね！



<リュドミラへ>

こんにちは！

私たちはブラジル、サンパウロ州、ソロカバ市のプルイシオ・デ・ブルメイダ学校の生徒です。私たちはあなた達の作文集「チェルノブイリの雪だるま」を読みました。

わたしたちの国の話を少しさせてください。ここは熱帯の国なので、とても暑いんです。わたしたちの国にもたくさん問題はありますが、自然は美しく、人々もとても親切です。ブラジル人は、自分たちの国のために一生懸命働いています。

わたしたちの学校はとても美しいところにあります。たくさん木やきれいな庭や気持ちのいいプールがあります。

私たちはあなたたちが放射能に汚染されている場所に住んでいることを知って悲しくなりました。とても体に悪いこと

でしょう？

あなたにわたしたちの真心を送ります。そして、もうすぐすべてがうまく行くようになることを願っています。

私たちの名前は：

リリカ 12歳

マーセル・ロペス 12歳



ソロカバ、1997年9月8日

私は私たちが取り組んだプロジェクトと私たちの学校「アルイシオ・デ・アルメイダ」についてお話ししたく、ペンを取りました。私の名前はマラ・フェラロと申します。高校1年生と2年生に哲学を教えています。私は「チェルノブイリの雪だるま」という本を読んで、初めて「チェルノブイリ支援運動・九州」の事を知りました。

今からお話するプロジェクトは

12、13才の生徒達がすすめました。

その手順としては

- 1、生徒達は「チェルノブイリの雪だるま」の中からピックアップした、いくつかのチェルノブイリの子ども達の作文を読みました。
- 2、それから生徒達はブラジルにある核施設（ブラジルには三つの核施設があります。そのうち二つはアングラ1と2という名前で、リオ・デ・ジャネイロにあります。残る一つはサン・パウロ州の私たちの町、ソロカバのすぐ近くにありま）とチェルノブイリ原発で起こった事故について調べました。
- 3、次のステップはチェルノブイリの苦しんでいる人々に、自分たちが親身に

心配していることを示す手紙を送ることです。この手紙は全部私のクラスの生徒達が書きました。私たちは、チェルノブイリ事故の、これからも消えることのない苦しみを背負って生きていかなければならない人たちにとって、この手紙が少しでも励ましになることを希望しています。私は、ベラルーシの子ども達の悲しい現実を教えてくれた「チェルノブイリ支援運動・九州」に感謝します。私も生徒達も、ベラルーシの人たちの便りが届くのを心待ちにしています。

敬 具

マラ・フェラロ (先生)

\*訳注：アングラ1、2は原子力発電所で、サン・パウロ州のはその他の核利用施設と思われる。

☆ これらの手紙は、ロシア語に訳され、作文を書いたベラルーシの子どもに届けることになっています。

☆ 「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」ポルトガル語版は、事務局でも1000円で販売しています。



## 事務局より

\*毎号振込用紙を入れています。これは、事務作業の手間を省くためと、思い立った時にいつでも振り込めるように毎回入れて欲しいという要望があったからです。すでに振り込まれた方には申し訳ありませんが、各自で処分されてください。また、振込用紙で書籍の注文もできるようになっています。「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」「ベラルーシの旅」など、まだお読みでない方はどうぞご注文ください。

\*募金等の領収書につきましては、必要な方のみ発行させていただくことになっています。振替用紙の中の要・不要の所に○印をつけてください。

領収書は特に希望がなければ次に送る通信に同封します。

\*振込用紙が届き、事務処理をするまで1～2週間かかります。書籍や領収書などでお急ぎの方は電話またはファックスでご一報ください。

\*2月から郵便番号が7桁になります。振込用紙には7桁のものをご記入ください。ご協力をお願いします。

わからないことがありましたら、事務局まで連絡をお願いします。不在時は留守電にメッセージを入れたら事務局員のポケベルに転送されるようになっています。折り返しこちらからお電話をしますので、必ず電話番号もメッセージに入れてください。

●チェルノブイリ支援運動・九州 第7回総会●

ストーリーン地区での  
医療検診活動を行って

と き 2月8日(日) 午後13:00~16:30

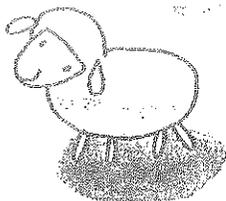
ところ 小倉北中央公民館 Tel 093-571-2712  
(北九州市小倉北区大門1-6-43 JR西小倉駅より徒歩10分)

■第1部 講演

午後13:00~14:30頃

講師 武市 宣雄(広島甲状腺クリニック院長)  
角 みどり(臨床検査技師)

昨年度より『「移動検診車導入」による早期診断・治療システム』が開始しました。2回の派遣を終えての検診結果と考察を武市医師にさせていただきます。また、検査技師として2度にわたって検診に参加した角さんが、NGOを体験して得たことを若い感性で話します。



■第2部 第8回総会

午後15:00頃~16:30

\*どなたでも参加できます。参加費は無料。

☆総会後は場所を変えて交流会を行います。(会費は実費) 交流会参加者希望者は、事務局まで申し込んでください。

主 催:チェルノブイリ支援運動・九州

連絡先:〒805-0050 北九州市八幡東区春の町1-3-7-2

TEL/FAX (093) 681-1780